

統計・財政情報連携プラットフォームの構築と データ視覚化による予算編成業務の改善

— 統計（マクロ）と財務（ミクロ）の垂直統合で挑む、「EBPMの実践的アプローチ」 —

厚木市 財政課

令和7年度EBPMブートキャンプ 最終報告会

2026/2/6

INDEX

目次

01 背景と着眼点

財政の硬直化と、眠れるデータ資産

02 実証から実装へ

プロトタイプによる実証と標準化への挑戦

03 Finance × Statistics FinStat

垂直統合データ分析の全体像と実演

04 事実に基づく合意形成

「主観」を戦わせる議論から、「事実」を積み上げる対話へ

01 背景と着眼点

財政の硬直化と、眠れるデータ資産

| 01 背景と着眼点

あつぎはこなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づく合意形成

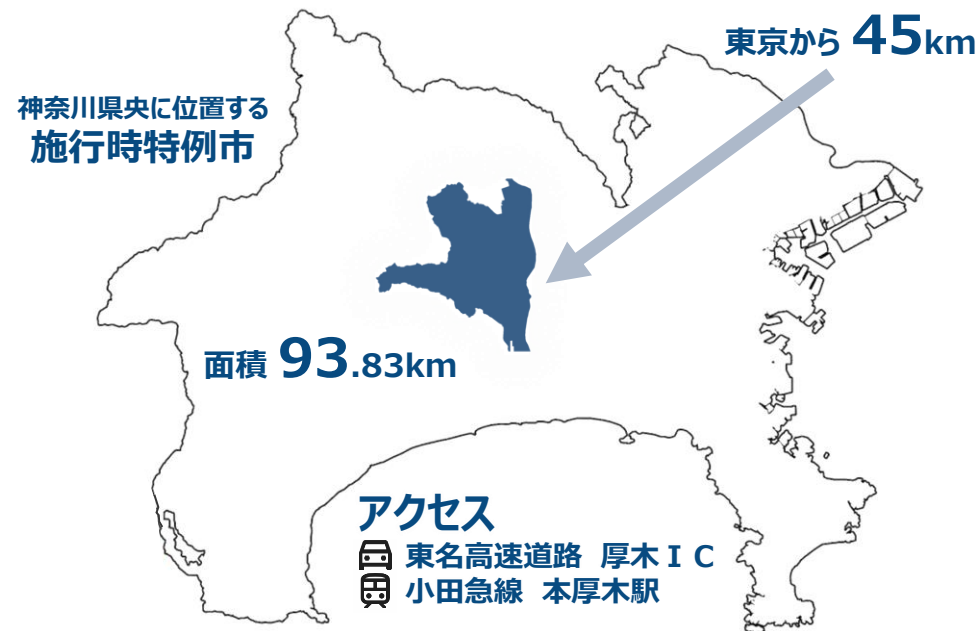
統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料 (機能紹介)

厚木市

- ・人口約22万人・神奈川県の中規模都市
- ・首都圏近郊（東京から約45km）
- ・一般会計 1,091億円（R7）
- ・製造業・研究拠点を有する都市
- ・一方で、少子高齢化は確実に進行

大きくもなく、小さくもない。
「顔が見える」からこそ
合意形成が難しい規模感



逃げ場のない包囲網

自治体財政は硬直化が進み、自由度は急速に失われている。

公共施設老朽化



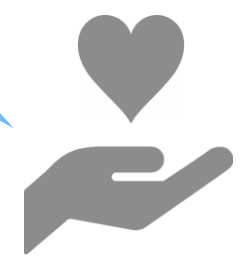
人口減少



自治体 財政



物価・人件費高騰



社会保障費増大

普通交付税の不交付団体である厚木市においても、

財政の硬直化

(経常収支比率増=財政余力低下、弾力性の喪失)

債務の累積

(起債残高増=借入金の肥大化、ストックの悪化)

将来負担の増大

(将来負担比率上昇=将来世代の負担増)

等、財務体質の悪化が進む。

| 01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料 (機能紹介)

眠れるデータ資産

財源は「ない」。しかし、データは「ある」！



交付税基礎数値
地方財政状況調査
健全化判断比率
決算カード

国・県のデータ（マクロ）

客観性 と 厳格性

膨大なコストと労力をかけて統一的・厳格に整理された行政資産



e-Stat
各種公式統計



財務会計システム
データ

市のデータ（ミクロ）

即時性 と 高解像度

日々の執行の中で積みあがる鮮度の高い生きた資産

現在置かれている困難な状況下、

眠れるデータ資産 を生かし切らな的是もったいない！

| 01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料（機能紹介）

マクロデータの充実と既存ツールの限界

「傾向」は掴めても、「真因」は特定できない

例えば、令和7年12月19日、デジタル庁と内閣府は、「**Japan Dashboard**」を大幅にアップデートし、従来の国・都道府県単位のデータに加え、**市町村単位のデータが追加**された。

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

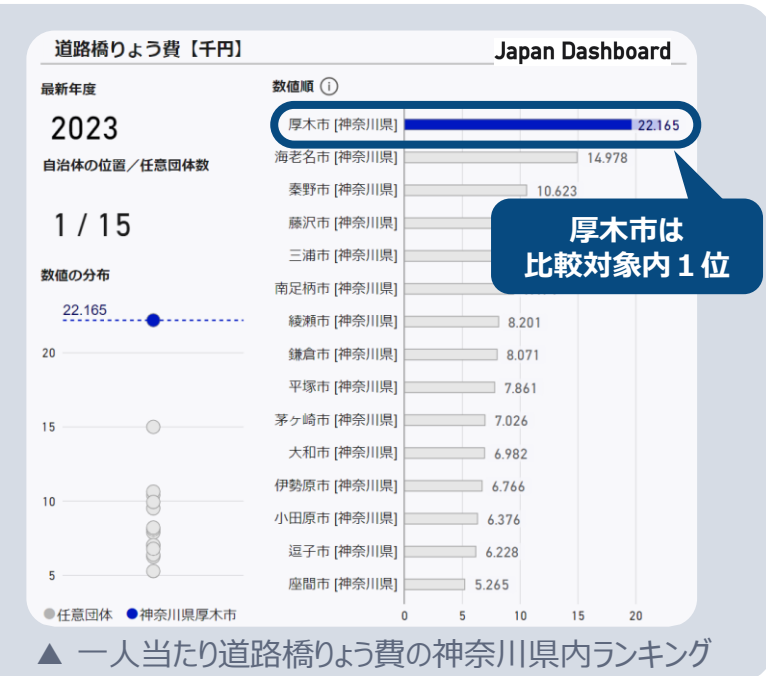
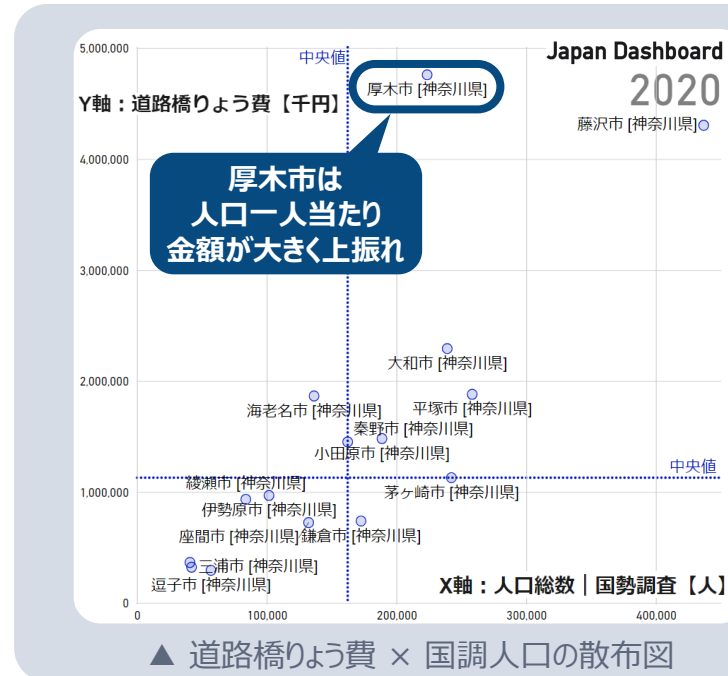
03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

試しに、Japan Dashboard で
「神奈川県内の一般市
15団体の道路橋りよう費」
をテーマに状況を視覚化



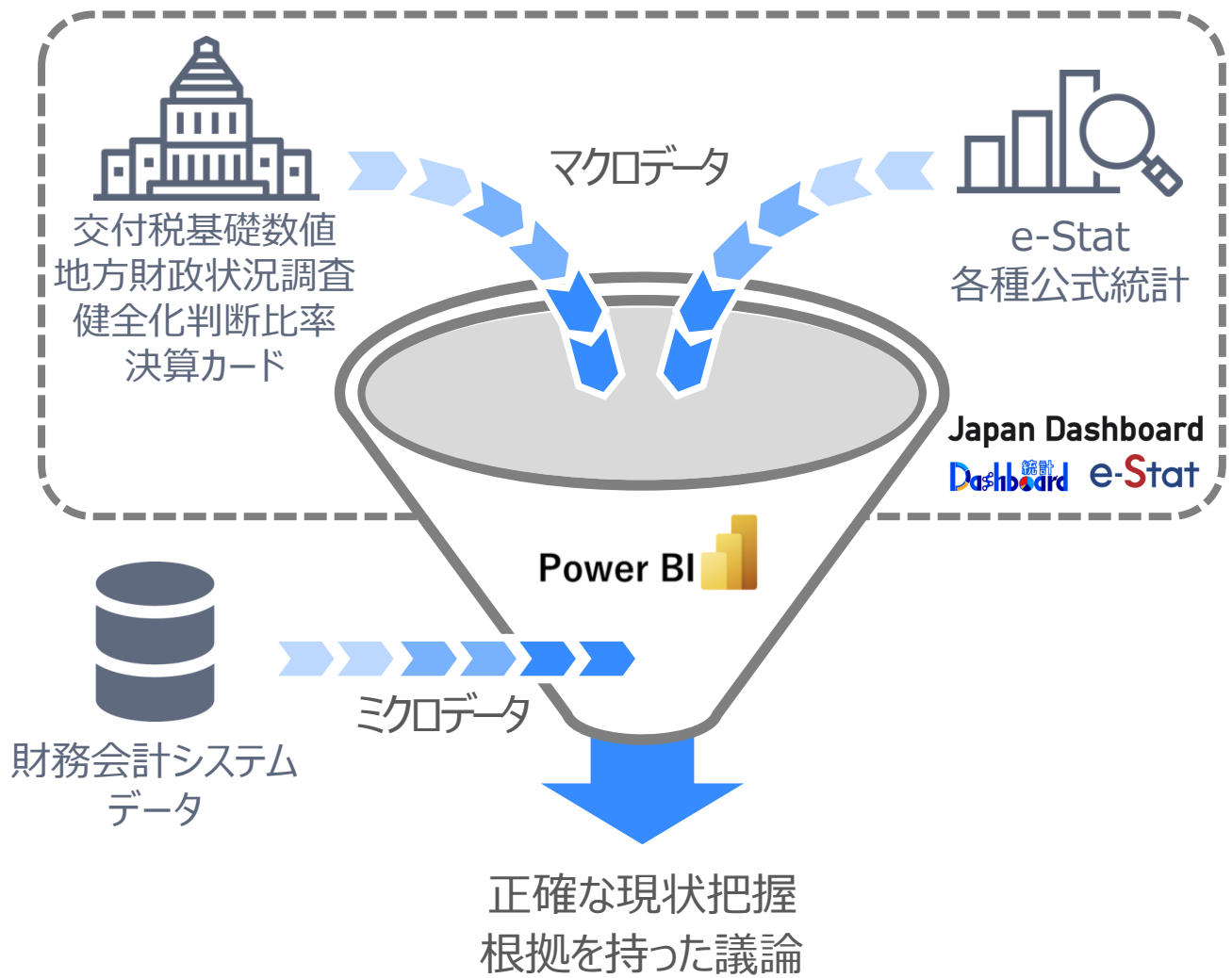
厚木市はコスト高であることが一目瞭然となった。

現在地はわかった。原因は何か？妥当性は？

その先を知りたい!

目指した姿 = 垂直統合モデル

分断された「マクロ」と「ミクロ」を一つに統合する！



- ・資料収集にコストがかかりすぎて議論の時間が取れない
- ・感覚に頼らず根拠に基づくより建設的な議論を行いたい



国等のダッシュボードを補完しながら
マクロ（統計）ミクロ（財務）を
垂直統合するプラットフォームを
実務者自らの手で構築し、
予算編成業務を改善する。

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

資料（機能紹介）

02 実証から実装へ

プロトタイプによる実証と標準化への挑戦

まずは独力でプロトタイプ「厚木市財政見える化ダッシュボード」を構築し、データ活用の有効性を実証した。

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

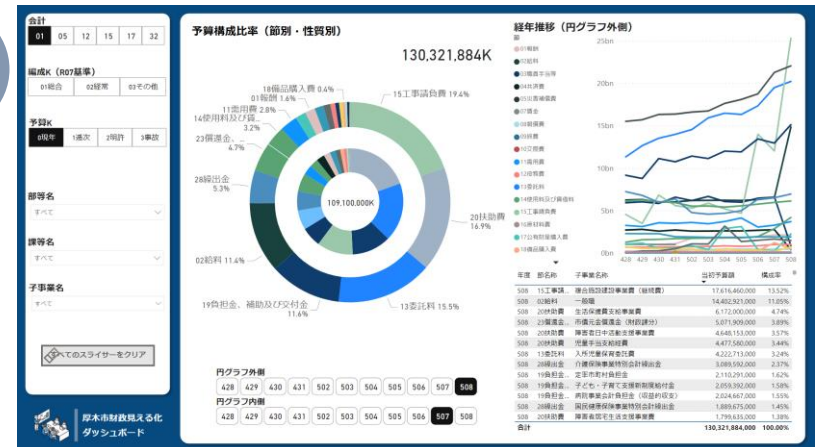
統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

資料（機能紹介）



令和3年度当初予算概算要求調査表(概算要求からの減額分)

部署名	課等名	編成区分	事業区分	子事業名	令和2年度当初予算額(千円)		令和3年度当初予算要求額(千円)			増減額(令和3年度-令和2年度)			
					合計	特定財源	一般財源	R3.1 事業費	R3.1 特定財源	R3.1 一般財源	合計	特定財源	一般財源
協働安全部	交通安全課	経常	継続	七沢自然ふれあいセンター維持補修事業費	16,387	0	16,387	245,420	0	245,420	229,033	0	229,033
市民健康部	国民健康課	経常	継続	国民健康保険事業特別会計繰出金	1,785,946	762,246	1,023,698	1,785,946	762,246	1,023,698	0	0	0
福祉部	介護福祉課	経常	継続	介護保険事業特別会計繰出金	2,279,921	125,025	2,154,896	2,574,792	144,466	2,430,324	294,871	19,443	275,428
総務部	職員課	経常	継続	一般職	14,100,308	667,552	13,432,756	14,546,588	619,010	13,927,578	446,280	▲48,542	494,822
都市整備部	その他	経常	継続	深大中央公園地下駐車維持管理事業費	33,613	33,613	0	158,148	33,613	124,535	124,535	0	124,535
道路部	道路維持課	経常	継続	歩行環境施設維持管理事業費	95,322	0	95,322	95,322	0	95,322	0	0	0
福祉部	生活福祉課	経常	継続	生活保護費支給事業費	5,510,000	4,338,165	1,171,835	5,943,147	4,686,219	1,256,928	433,147	348,054	85,093
教育総務部	学校教育課	経常	継続	小学校維持補修事業費	105,010	0	105,010	210,220	0	210,220	105,210	0	105,210
教育総務部	学校教育課	経常	継続	中学校維持補修事業費	60,839	0	60,839	173,244	45,700	127,544	112,405	▲45,700	66,705
市民健康部	国民年金課	経常	継続	定率市町村負担金	1,510,317	0	1,510,317	1,647,797	0	1,647,797	137,480	0	137,480
市民健康部	国民年金課	経常	継続	後期高齢者医療事業特別会計繰出金	589,672	405,585	184,087	647,533	408,436	239,097	57,861	2,851	55,010
協働安全部	交通安全課	経常	継続	文化会館維持管理事業費	152,729	91	152,638	212,529	91	212,438	59,800	0	59,800
都市整備部	下水道課	経常	継続	下水道事業会計負担金(収益的収支)	683,131	0	683,131	723,512	0	723,512	40,381	0	40,381
都市整備部	公園緑地課	経常	継続	ほうさいの丘公園維持補修事業費	12,959	4,300	8,659	39,388	0	39,388	26,429	▲4,300	30,729
協働安全部	交通安全課	経常	継続	自転車等駐車場維持管理事業費	109,823	109,186	637	182,799	130,640	52,159	72,976	21,454	51,522
協働安全部	交通安全課	経常	継続	学校水泳プール開放費	25,605	0	25,605	25,575	0	25,575	▲30	0	▲30
都市整備部	公園緑地課	経常	継続	みどりの育成事業費	45,149	25,149	20,000	46,739	0	46,739	1,590	▲25,149	26,739
市長室	危機管理課	その他	継続	急傾斜地崩壊対策事業費	16,015	0	16,015	25,015	0	25,015	9,000	0	9,000
環境政策部	環境管理課	経常	継続	ごみ収集管理事業費	245,903	76,676	169,227	279,473	19,481	259,992	33,570	▲57,195	90,765
道路部	道路維持課	経常	継続	道路施設維持管理事業費	440,076	116,418	323,660	478,136	109,856	368,280	38,058	▲6,562	44,620



効果1 予算・決算の状況把握性向上

Excelベース。表形式。視覚的な状況把握が難しく、論点がうまく共有されない。



BIツール導入。動的なグラフ表現。数値推移・変動を視覚的に共有できる。論点が明確化・議論が効率化。

効果2 情報引き出しの迅速化

情報は表示されているものが全て。議論の流れに随時の追従ができない。根拠を確認したいタイミングを逃す。



情報がデータベース化されており、ニーズに応じた切り口で瞬時に欲しい情報へのアクセスが可能に。

令和7年度及び令和8年度の当初予算編成で活用し、一定の効果を確認。

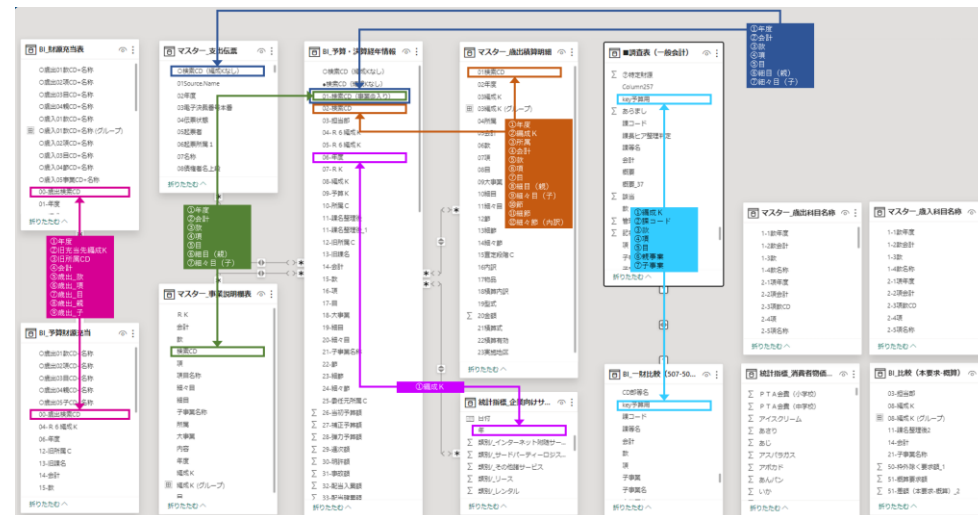
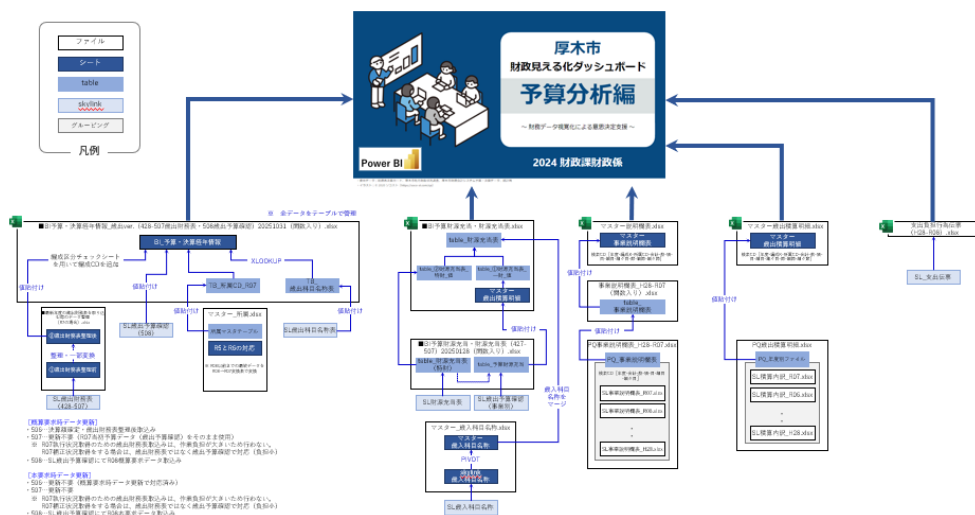
R6 の取組み 直面した「属人化」の壁

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保



しかし、個人開発ゆえの「保守性」と「拡張性」の課題に直面。

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

直面した課題

- データのリレーションや加工プロセスが複雑化してしまった。
- チームで動いておらず、知識を共有できていなかった。
- 独学では知識の体系化に限界があり、形式知として表出できなかった。

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

個人が独学で作ったツールは
開発者の異動と共に『ゴミ』になる運命…



R7 の取組み チームビルディングによる体制強化

「個人の任意な取組み」から「組織のプロジェクト」へ



個人の任意な取組み

正式な位置付けを持った組織的・持続可能な取組みへ

EBPMブートキャンプへの参加 ➡ 外部有識者の伴走支援を獲得
 「庁内職員応援制度」の活用 ➡ 所属を超えて開発・運用体制をチーム化

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
 逃げ場のない包囲網
 眠れるデータ資産
 既存ツールの限界
 目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
 属人化の壁
 チームビルディング
 データ構造の標準化
 再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
 データ分析全体像
 ドリルダウン実演
 期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
 データ基盤の自律的成長
 結び

資料 (機能紹介)

R7 の取組み データ構造の標準化による保守性の向上

属人性の高い「巨大なフラットファイル」からの脱却

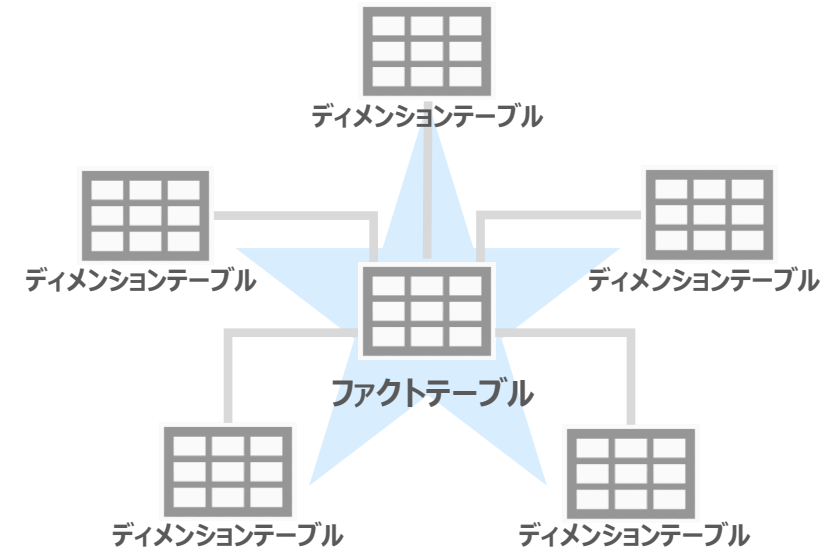


一枚板の巨大フラットファイル



属人性の強いプロトタイプ

- ・Excel関数を多用し、執念で結合させた非効率なデータ構造
- ・処理プロセスがブラックボックス化



ファクトをディメンションが囲む = スタースキーマ

データ構造を **スタースキーマ** に刷新し **保守性を向上**

- ・データ分析標準モデル「スタースキーマ」採用・構造シンプル化
- ・「事実 = ファクト」と「属性 = ディメンション」の分離により、拡張性とメンテナンス性を向上

『**個人の執念**』で動かすシステムから、『**組織の仕組み**』で動くシステムへ

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

資料 (機能紹介)

R7 の取組み 再現性の確保

開発ノウハウや操作方法をドキュメント化し、「暗黙知」を「形式知」へと転換

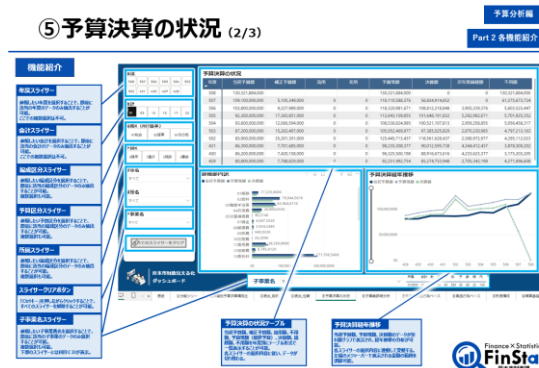
整備したドキュメント群

- ・ 運用マニュアル（基本操作）
- ・ データ処理解説書（ロジックの説明）
- ・ メンテナンスガイド（データ更新手順）
- ・ 活用事例集（分析の切り口）

個人依存の不安定な工程を徹底排除。
 詳細なドキュメントで『形式知』へ変換し、
再現性を確保。組織的な継続運用を目指す。



▲データ処理解説書



▲運用マニュアル（基本操作）

Case1 | ひとり親家庭等医療費助成事業費

- ・ ひとり親家庭等医療費助成事業の予算は、助成対象拡充を踏まえて増額要求されていた。
- ・ 助成対象拡充が直近の月別支出ベースに大きな影響を与えないことが明らかになったため、例年同様の査定となった。



▲活用事例集（分析の切り口）

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
 逃げ場のない包囲網
 眠れるデータ資産
 既存ツールの限界
 目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
 属人化の壁
 チームビルディング
 データ構造の標準化
 再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
 データ分析全体像
 ドリルダウン実演
 期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
 データ基盤の自律的成長
 結び

資料（機能紹介）

『職人芸』から継続運用が可能な『組織の資産』へ

Finance × Statistics

03 FinStat

垂直統合データ分析の全体像と実演

財政課職員が、実務で抱く「素朴な疑問」と「切実な願望」を、自力で形にするDIYツール



統計データ（マクロ）と財務データ（ミクロ）の垂直統合プラットフォーム

開発の思想

現場の疑問やニーズに
即応するため内製化

何をしたいのか？

勘と経験による議論を
事実（データ）による対話に変える

実務の手で作り、事実で動かす

| 01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

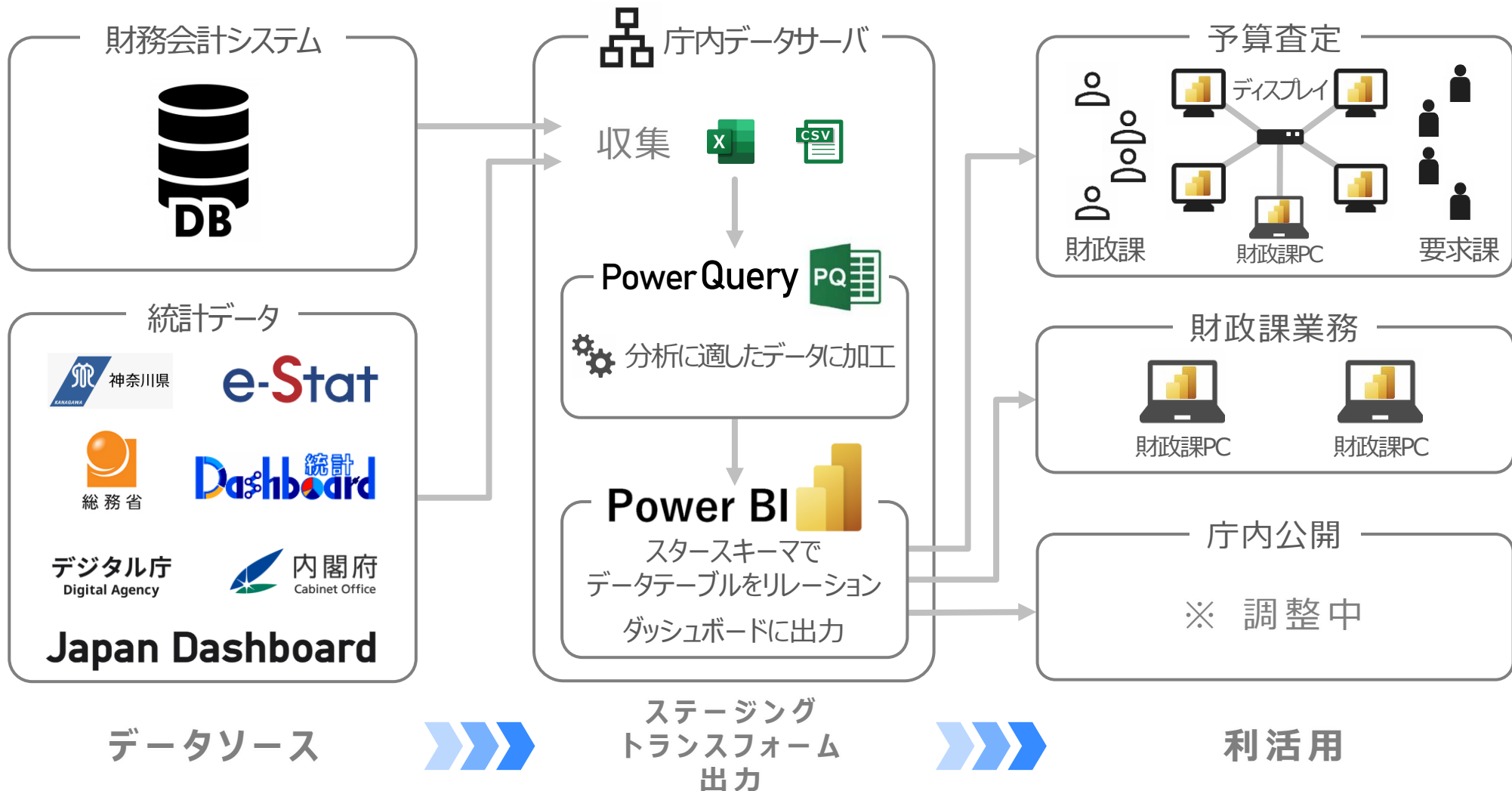
FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料（機能紹介）

データ分析の全体像



01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

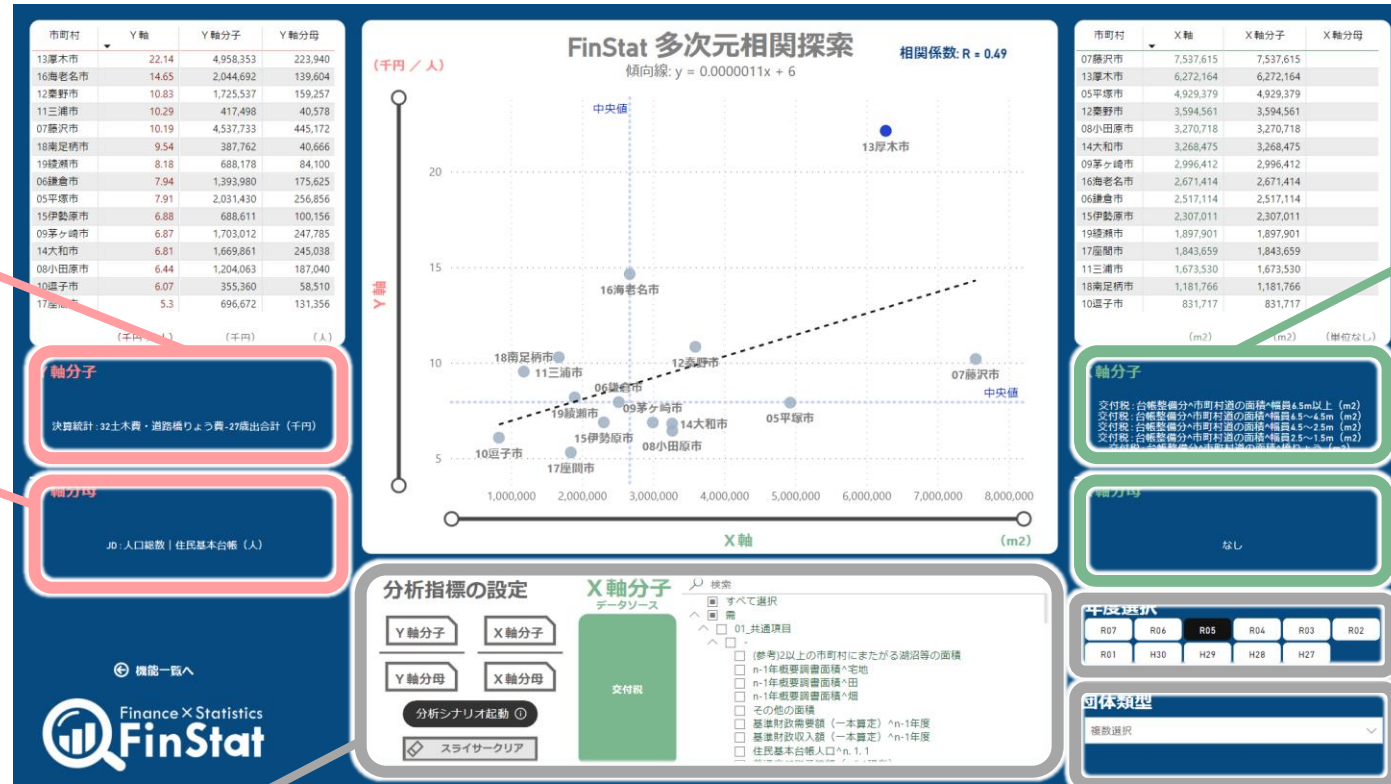
統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

資料 (機能紹介)

多次元相関探索とドリルダウン実演

1 「多次元相関探索」のセッティング

(軸項目分母分子自由選択組合せ型自治体水準比較散布図)



Y 軸分子
決算統計
土木費-道路橋りょう費
歳出総額 (千円)

Y 軸分母
Japan Dashboard
住民基本台帳人口
(人)

X 軸分子
交付税基礎数値
台帳整備市町村道
面積-幅員非限定
(m²)

X 軸分母
選択なし

年度選択
R05

団体類型
保健所政令市
施行時特例市
一般市

XY軸分母分子
セッティングスライサー

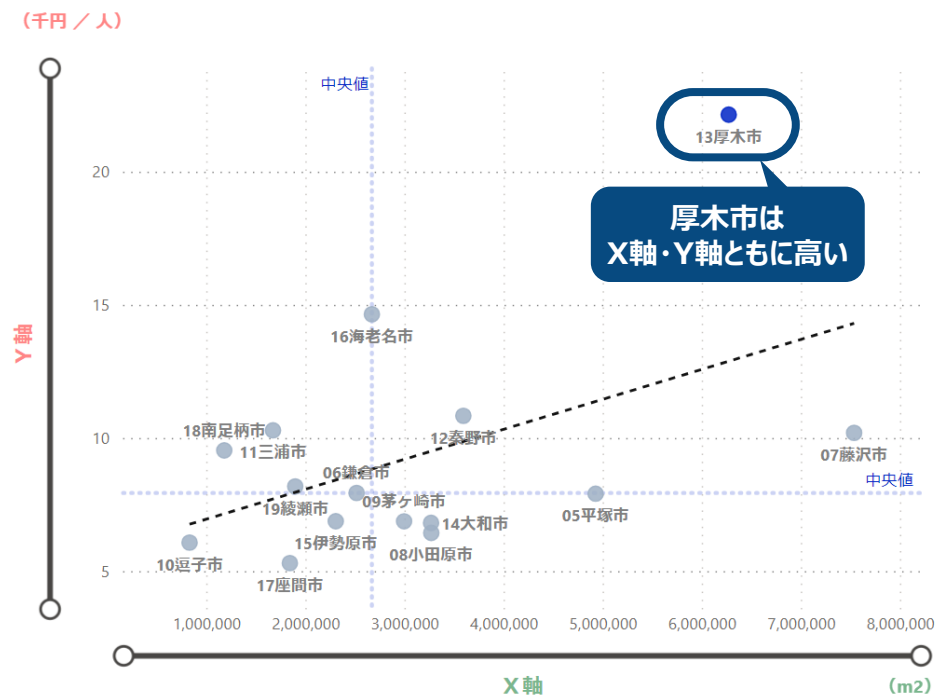
人口 1 人あたり道路橋りょう費 (千円) × 市道路面積 (m²)
の自治体間水準比較

- 01 背景と着眼点
あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿
- 02 実証から実装へ
プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保
- 03 FinStat
FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果
- 04 事実に基づく合意形成
統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び
- 資料 (機能紹介)

多次元相関探索とドリルダウン実演

1 異常値の確認と仮説構築

人口1人当たり道路橋りょう費 × 道路面積



可視化による気づき

X軸 (道路面積) : 右側

➡市町村道面積が大きい = 「守るべきインフラ量が多い」

Y軸 (コスト) : 上側

➡人口一人当たり道路橋りょう費が高い = 「市民一人当たり負担大」

市道面積が広く、支えるべきインフラ多く市民の負担は大きくなりやすい構造となっているが…

一人当たりコストは他団体と比べ圧倒的に高い。

仮説

国から補助をもらって、大規模な道路建設 (補助事業) を進めていることが原因か?



実際のところどうなのか? **深掘りする**

Y軸:人口1人当たり道路橋りょう費

分子

決算統計
土木費-道路橋りょう費
歳出総額 (千円)

分母

Japan Dashboard
住民基本台帳人口 (人)

X軸:市町村道面積

分子

交付税基礎数値
台帳整備市町村道面積
幅員非限定 (m)

分母

選択なし

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づき合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

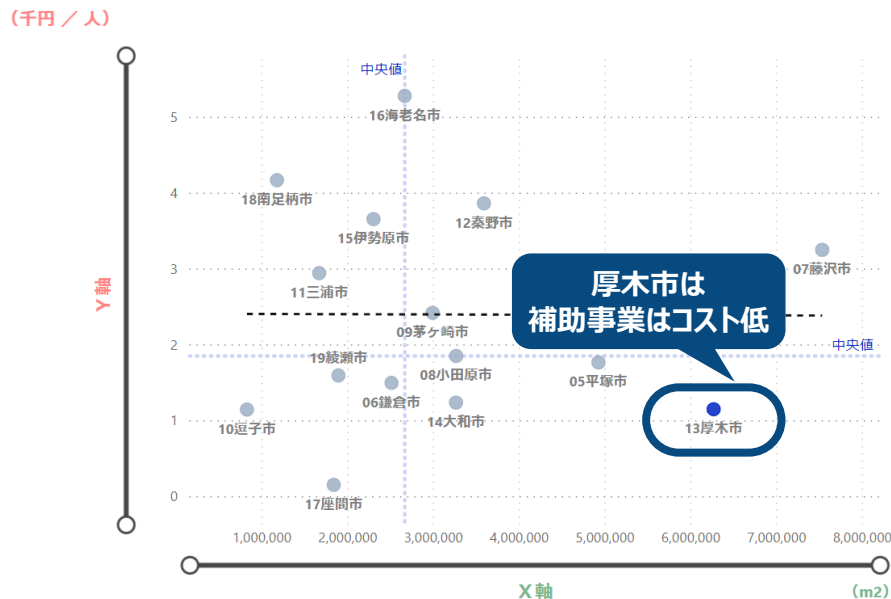
資料 (機能紹介)

多次元相関探索とドリルダウン実演

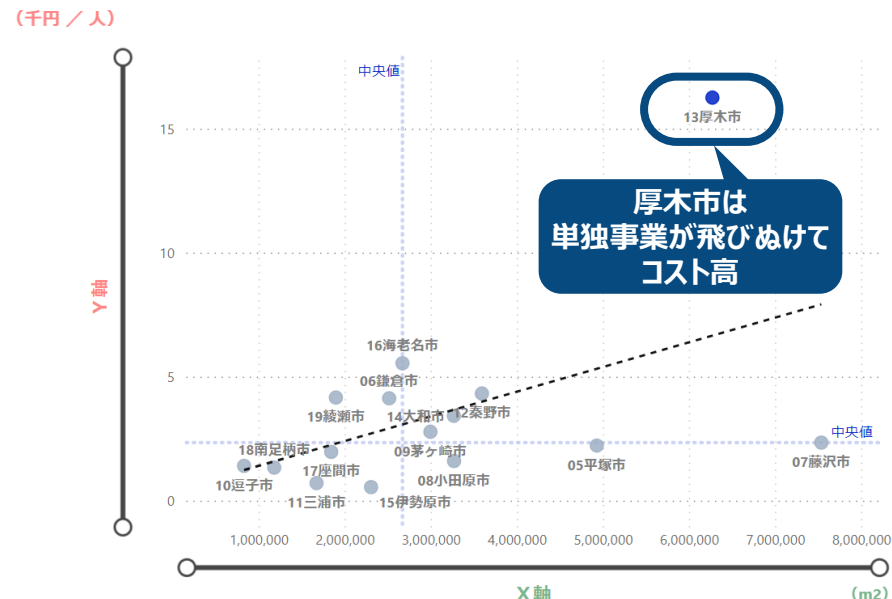
2 分析粒度を上げての仮説検証（ドリルダウン）

仮説検証

仮説の検証のため、決算額の粒度を上げて(細かくして)、補助事業/単独事業に分けて分析



Y軸: 人口1人あたり道路橋りょう費 (補助事業)
X軸: 市町村道面積



Y軸: 人口1人あたり道路橋りょう費 (単独事業)
X軸: 市町村道面積

検証結果

厚木市の道路橋りょう費が他団体の水準を大きく上回るのは、**単独事業**の実施総量が多いことが原因。(国の財布ではなく、市の財布(市民の税金)で道路を直している割合が以上に高い。)



原因となる具体的な事業は何か? **更に深掘りする**

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

資料 (機能紹介)

多次元相関探索とドリルダウン実演

3 「財源構成」のセッティング（道路関係単独事業の抽出）

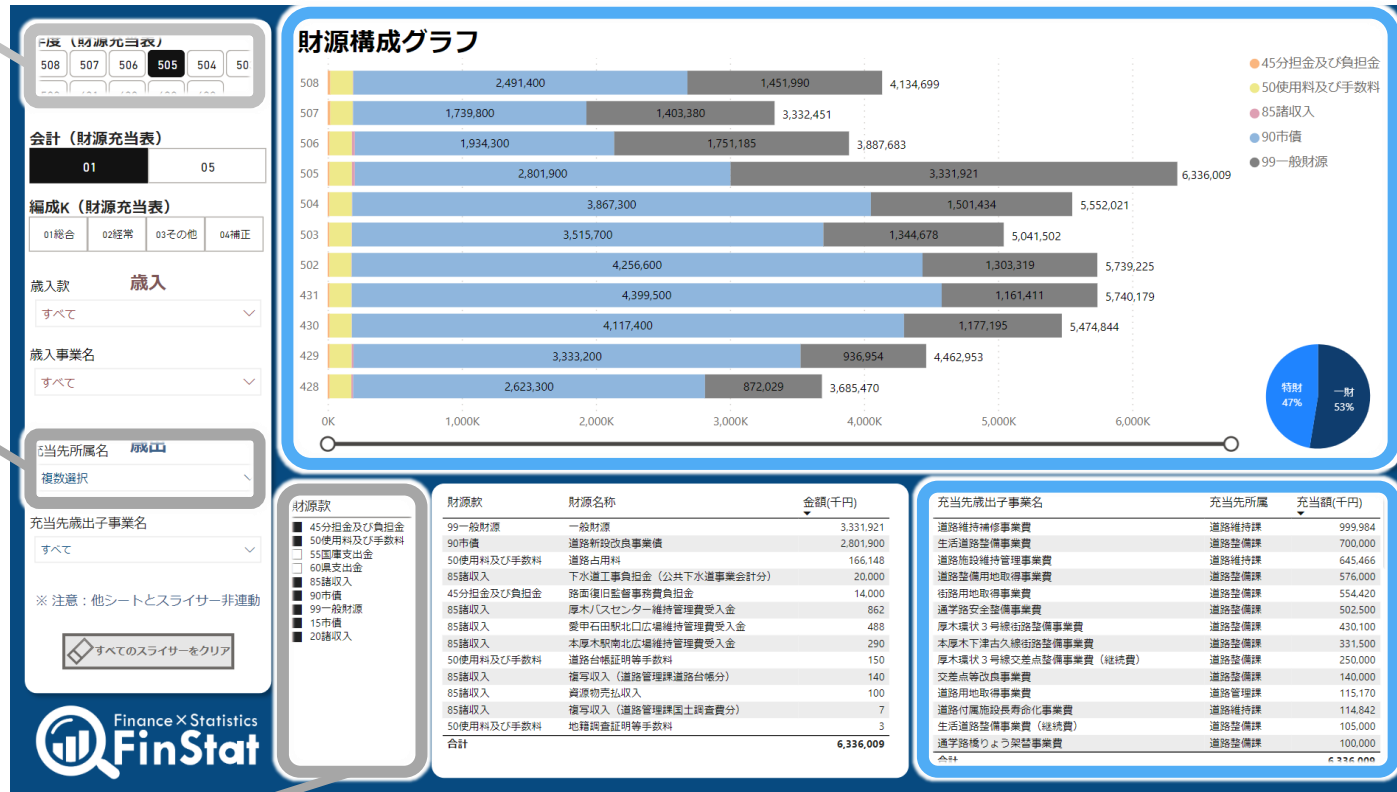
年度選択

R05

事業課
道路関係全選択

財源選択

国庫支出金除外
※国庫を伴う県支出金もあるため、県支出金は念のため除外



予算
経年推移

執行事業
リスト

国庫支出金を受けずに行う道路関係事業費
(単独事業の抽出)

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

資料 (機能紹介)

多次元相関探索とドリルダウン実演

3 粒度を上げて具体的な事業費・執行伝票を特定（更なるドリルダウン）

充当先歳出子事業名	充当先所属	充当額(千円)
道路維持補修事業費	道路維持課	999,984
生活道路整備事業費	道路整備課	700,000
道路施設維持管理事業費	道路維持課	645,466
道路整備用地取得事業費	道路整備課	576,000
街路用地取得事業費	道路整備課	554,420
通学路安全整備事業費	道路整備課	502,500
厚木環状3号線街路整備事業費	道路整備課	430,100
本厚木下津古久線街路整備事業費	道路整備課	331,500
厚木環状3号線交差点整備事業費（継続費）	道路整備課	250,000
交差点等改良事業費	道路整備課	140,000
道路用地取得事業費	道路管理課	115,170
道路付属施設長寿命化事業費	道路維持課	114,842
生活道路整備事業費（継続費）	道路整備課	105,000
通学路橋りょう架替事業費	道路整備課	100,000
合計		6,336,009



厚木市の道路関係事業（単独事業）リスト

道路関係事業の執行伝票と執行ペース

深掘りして解像度を高め、建設的な議論をする

NG！ 道路関係予算が高いからとにかく削れ！



- A 既存道路の維持補修 …厚木市は物流拠点であり交通量が激しいため、道路の消耗が早い。 ➡ 国庫少。老朽化。やむを得ない。
- B 道路用地の取得 …新規道路・道路改良のための用地取得。新たなストックとなる。 ➡ 将来負担を考慮し精査しよう。
- C 幹線道路整備 …都市計画全体の中で予算化の時期が左右される。新たなストックとなる。 ➡ 将来負担を考慮し精査しよう。
- D 生活道路整備 …住民要望への対応。新たなストックとなる。 ➡ 将来負担を考慮し抑制しよう。

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

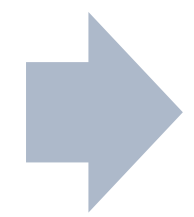
04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

資料（機能紹介）

期待される導入効果

議論を『説得』から『納得』へ



Before

After

経験や勘の否定ではなく、
それらを裏付けるための「事実」を
誰もが即座に取り出せる状態に。

| 01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料（機能紹介）

04 事実に基づく合意形成

「主観」を戦わせる議論から、「事実」を積み上げる対話へ

海に浮かぶ氷山で例えると・・・

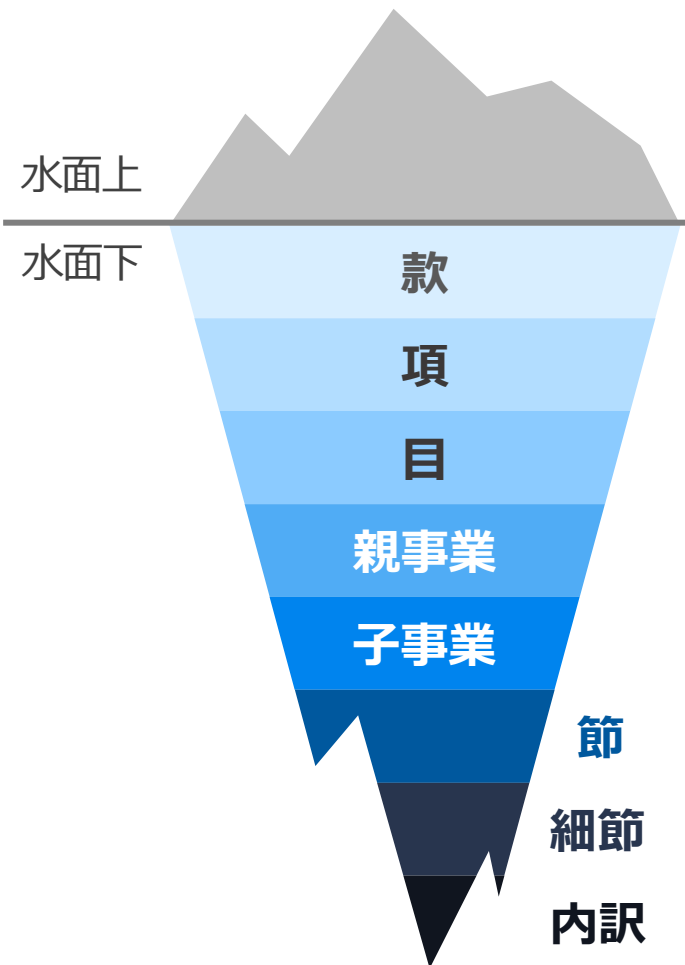
統計データ

全国一律の基準で他団体比較
健康診断
マクロの視点
課題の抽出・気付き



財務会計システムデータ

自団体のみがアクセスできるデータ
精密検査
ミクロの視点
現場の問題の特定



国・県のデータで『課題』を見つけ、
現場（自治体）のデータで『原因』を特定する
国と自治体の二階建て構造で
分断されたマクロとミクロを繋ぐ

- | 01 背景と着眼点
あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿
- | 02 実証から実装へ
プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保
- | 03 FinStat
FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果
- | 04 事実に基づく合意形成
統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び
- | 資料（機能紹介）

実装を定着させ、次へ繋ぐ

今後取り組みたいこと

庁内オープン化

(公開範囲拡大)

運用サイクルの確立

(技術の平準化・誰もが更新できる形へ)

使い手の拡大・リスキリング

(意欲のある人材の発掘・スカウト・育成)

統計と財務のデータ連結

(異なるデータの物理的な同期)

データ資産の拡充

(組織資産の蓄積・活用場面拡大)

データ文化の醸成

(引き継ぎ熟成させる)

| 01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料 (機能紹介)

| 01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料（機能紹介）

自治体予算編成は、最終的に
「人と人」、「信頼」、「政治」で決まる場面も多い。
だからこそ、「客観的・定量的な現状把握」が大前提と考える。

『主観』を戦わせる議論から、『事実』を積み上げる対話へ。



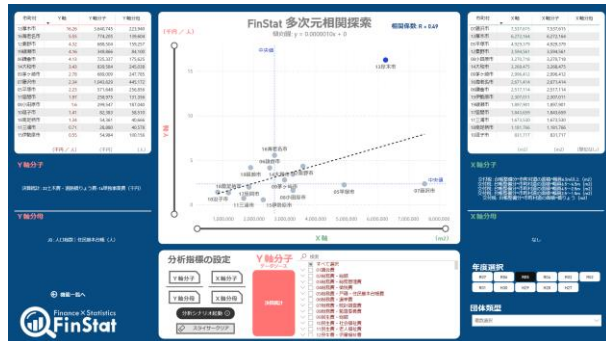
資料 Finance
×
Statistics **FinStat** 機能紹介

統計データ（マクロ）× 財務データ（ミクロ）垂直統合プラットフォーム



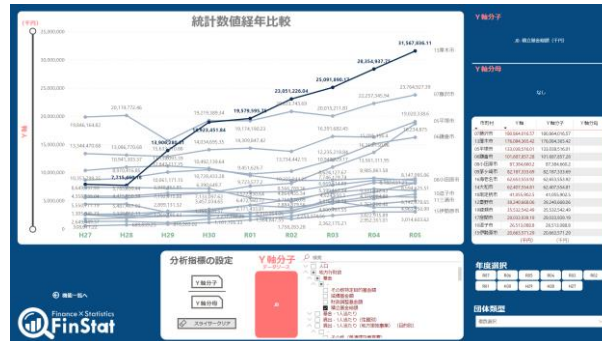
総務省統計局データ利活用センター「令和7年度地方における課題解決に資するデータ利活用支援事業」採択プロジェクト
 厚木市 × 総務省統計局 × 坂元准教授（大手前大学） × 株式会社日本総合研究所 × 神奈川県市町村課
 FY2025 MIC Project | Atsugi City × Associate Professor Sakamoto (Otemae Univ.) × JRI × Kanagawa Pref.

統計データ（マクロ）



A 多次元相関探索

データ×財務データ 団体比較散布図
 ➡X軸・Y軸の項目を分母分子や項目を自由に組み合わせながら、自治体間の統計・財務データを基にした水準比較をする。



B 統計値経年比較

FinStat搭載の統計データを確認する
 ➡FinStatに取り込んだ地方交付税基礎数値、決算カード、e-stat、JapanDashboard等の統計データの経年推移を確認する。



C 統計値団体比較

FinStat搭載の統計データを確認する
 ➡FinStatに取り込んだ地方交付税基礎数値、決算カード、e-stat、JapanDashboard等の統計データの団体比較・内訳を確認する。

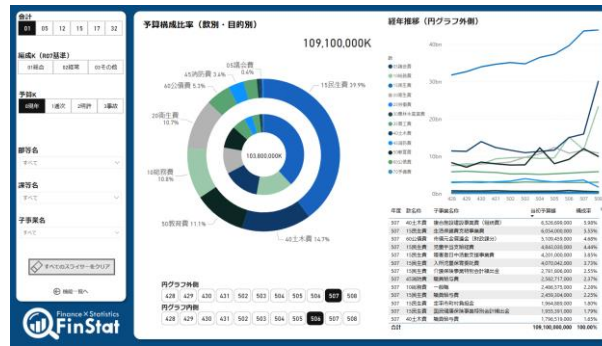
財務データ (ミクロ)



①分解ツリー

予算を構成要素ごとに階層的に分解する

▶ツリー表示により、予算の構造や規模感を、構成要素ごとに全体から詳細まで様々な階層で分解表示することで把握する。



③歳出_目的

予算の構成比率を目的別分類で分析する

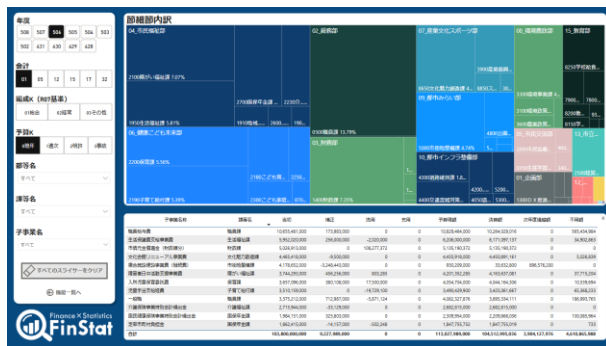
▶予算をドリルダウンやスライスをしなが、目的別分類における構成比率や金額の経年推移を表示する。



⑤予算決算の状況

予算・決算・執行状況の経年推移を分析する

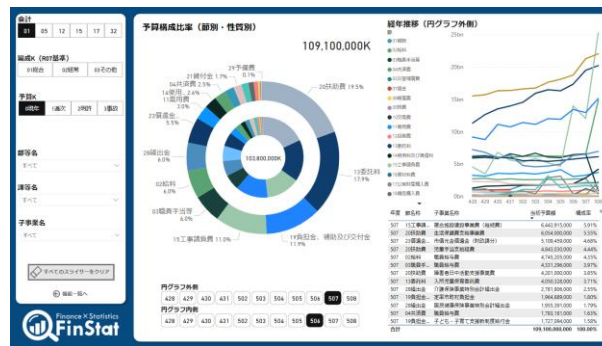
▶予算をドリルダウン・スライスをしなが、当初予算、補正予算、流用、決算、繰越、不用額等の経年推移を表示する



②所属別予算決算構成比

予算全体の中で何が大きな割合を占めているか規模感を把握する

▶ツリー表示で予算全体から詳細までの規模感を、確認したい切り口に合わせて動的にデータを掘り下げる。



④歳出_性質

予算の構成比率を性質別分類で分類する

▶予算をドリルダウンやスライスをしなが、性質別分類における構成比率や金額の経年推移を表示する。



⑥子事業詳細分析

予算の執行事業の詳細な分析をする

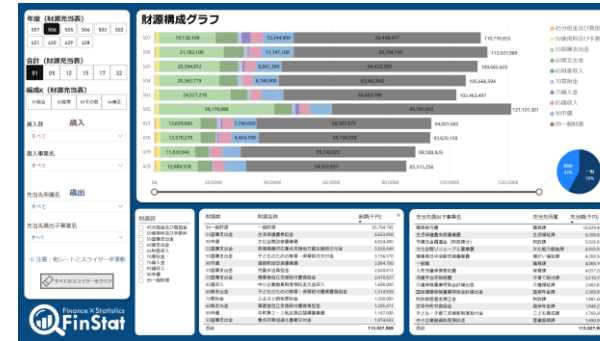
▶予算の子事業(執行事業)ごとに科目(節・細節・内訳)の状況、事業目的、積算内訳、前年度との違いを表示する。

財務データ (ミクロ)



⑦年度別負担行為ペース

予算執行何額のペースを年度間で比較する
 ➡予算を様々な階層でスライスしながら、月別の執行何額を年度別にグラフ化することで、執行の傾向やペースを確認する。



⑨財源構成

予算上の財源充当関係を経年で把握する
 ➡予算上の財源充当関係や財源構成を、ドリルダウンやスライスをしながら経年推移を表示する。歳入・歳出面からの検索可。



⑧負担行為伝票&ペース

予算執行何伝票と子事業執行ペースを確認する
 ➡予算執行何伝票（支出負担行為伝票）を確認するとともに、子事業（執行业業）別に年度内の執行何額ペースを表示する。

⑩積算基礎検索

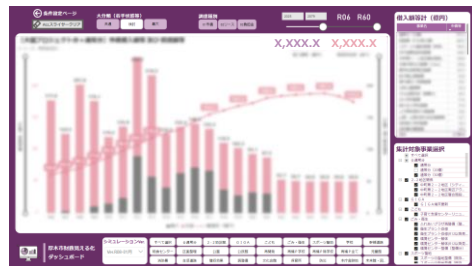
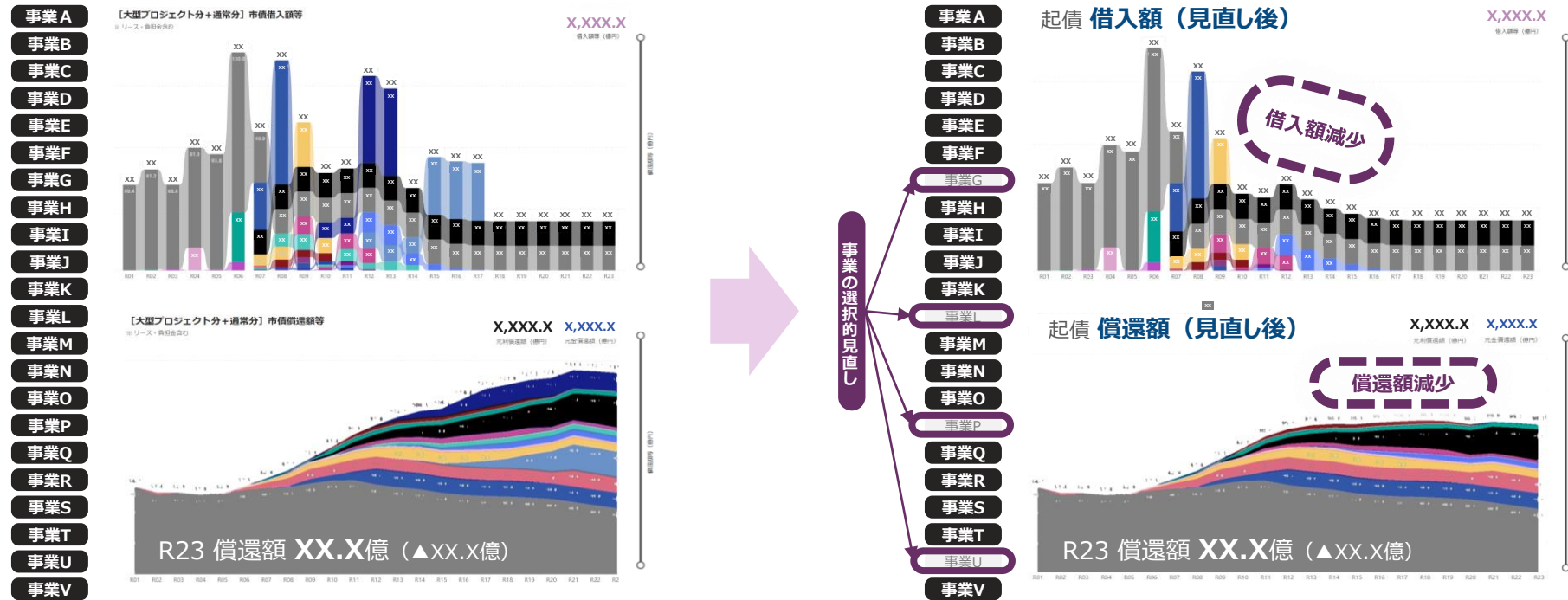
予算積算基礎を横断検索する
 ➡予算全体をキーワードで横断検索し、類似の積算を検索・比較する。また、特定の積算基礎の経年推移を確認する際に用いる。

厚木市財政見える化
ダッシュボード

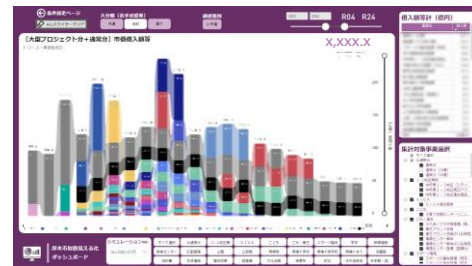
(財政シミュレーション編) ※ 参考・PowerBI別システム

自治体財政運営の肝となる起債借入・償還 を、PowerBI上で実施事業を選択することによりシミュレート

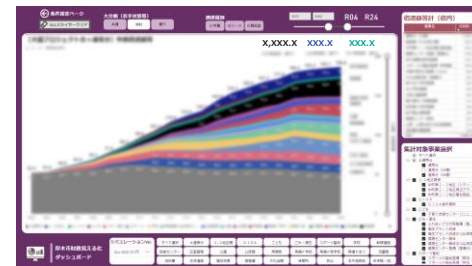
※ 今後、金利変動による影響を what-if 分析で反映できるように機能拡張を予定。



借入・償還



借入



償還



年度末残高と増減